



中央中だより

【学校教育目標】心豊かに 学び合い たくましく 未来を拓く生徒

『生徒会憲章』の実現を図りながら、
生徒一人一人の自己肯定感を高め、3年計画で自立を促し、未来への志を育む



第2学期スタート

2学期がはじまりました。残暑が予想され熱中症が心配されますが、今までの経験と情報（知識）をもとに、より正しい判断、行動を心掛けていきましょう。ぜひ、「損（そん）」をしない生活を心掛けていきましょう。この2学期は体育祭と合唱コンクールがあります。時間をかけてクラスで協力して創り上げる行事です。みんなでチャレンジしていきましょう。

「段取り8分、仕事2分」という言葉があります。昔から仕事は段取りで決まると言われています。仕事を成功させるための大きな要素のひとつが「段取り」です。由来は、いくつかあるようですが、歌舞伎の楽屋用語で話の区切りや一幕を「段」と言うそうです。ここから芝居の筋の展開や組み立てのことを「段取り」と言うようになったそうです。例えば、ミュージカルなどの舞台演出家は、自分の決めた脚本に従い、俳優に演技指導し、美術や照明、音響などのスタッフと協力しながら、イメージした舞台を作り上げていきます。ひとつの舞台を完成させるためには、たくさんのスタッフとの段取りが必要になります。この考え方は、これからの学校行事や学習にも当てはまると思います。ひとつの行事（学習）をやり遂げるためには、目指すゴールを決め、それを達成するための道筋を考えます。そして、発生するリスクを最小限にした方法を実行していくことになります。プロジェクトを進めるリーダーは、メンバーに的確に指示を与え、周囲と自分自身をマネジメントしながら、目的に向けてけん引（ひっぱる）していく必要があります。段取りとは、目的を達成するための道筋を考えて事前準備をすることと言えます。事前にきちんとした段取りをすることで手順が明確になり、仕事（行事・学習）の質とスピードが上がります。予想外のことが起きても、手順の見直しを迫られることもあります。事前に準備して取り掛かるのとそうでないのとでは、仕事（行事・学習）の仕上がりに大きな差が生まれるのです。

- (1) 達成すべき目的（目標）を明確にする。
- (2) ゴールをイメージする。
- (3) 必要な作業（取組）をリストアップする。
- (4) 作業（取組）の優先順位をつける。
- (5) 計画を立てる。
- (6) 計画を実行する。
- (7) 計画と実績（結果）の比較・評価をする。

POINT①

一つ一つの仕事に当事者意識を持つと「他人事の仕事」が「自分事の仕事」に変わる。これにより「主体的に物事を動かせる自分」に変えてくれる。

POINT②

先読みをする。（自分がやっている作業の先に何があるのか、そのために今の自分は何をしておくべきなのかを理解しておく。）

学校総合体育大会県大会等の結果 (敬称略)

関東中学校体育大会 (水泳)	宮村ひかり	100m 自由形
埼玉県中学校総合体育大会 (ソフトボール)	1回戦惜敗	
(陸上競技)	神場 光 (円盤投げ)	
埼玉県吹奏楽コンクール地区大会 (B部門)	銀賞	

9・10月の行事予定

9月1日 (月) 第2学期始業式 避難訓練 3日 (水) 給食開始日 10日 (水) 新人陸上大会 (本校会場) 15日 (月) 敬老の日 16日 (火) 生徒会朝会 (壮行会) 17日 (水) ステップアップテスト② (3年) 18日 (木) 新人戦所沢市予選会① 19日 (金) 新人戦所沢市予選会② 20日 (土) 新人戦所沢市予選会③ 23日 (火) 秋分の日	10月4日 (土) 第47回体育祭 6日 (月) 振替休業日 (開校記念日) 10日 (金) 生徒会本部役員選挙 13日 (月) スポーツの日 15日 (水) 市内駅伝大会 本部任命式 20日 (月) 3年中間テスト① 21日 (火) 3年中間テスト② 22日 (水) ステップアップテスト③ (3年) 23日 (木) 1・2年中間テスト① 24日 (金) 1・2年中間テスト②
---	--

情報モラルって何? 情報モラル=日常モラル+情報技術の仕組み

モラルとは、人が現実社会において守るべきとされる規範のことです。法的な拘束力はありませんが善悪の判断をともなう個人の感性です。日常生活を送るうえで、道徳的に正しいと考えられる行動であり、例えば「ウソをつかない」「他人に迷惑を掛けない」「ゴミをポイ捨てしない」などが含まれます。情報モラルという言葉は聞いたことがあると思いますが、みなさんが情報社会の中でよりよく活動するために適切な考え方や態度を育むことが大切です。情報社会における課題として、①インターネットやSNS、ゲーム等に依存する。②相手とのやりとりで問題を起こす。③自分が被害者や加害者になる。この3つの視点に整理することができます。このような課題をみなさんが主体的に解決するためには、まず「日常モラル」をしっかり身につけること、その上で「情報技術の仕組み」を理解し、これらを組み合わせて「考える力」を養うことが重要です。

日常モラル	情報技術の仕組み
節度 <input type="checkbox"/> やりたいことを我慢する <input type="checkbox"/> ほしいものを我慢する 等	インターネットの特性 <input type="checkbox"/> 公開性：公開している <input type="checkbox"/> 記録性：記録が残る <input type="checkbox"/> 信憑性：信用できない情報がある <input type="checkbox"/> 流出性：情報が洩れる
思慮 <input type="checkbox"/> 情報を正しく判断する 等	心理的・身体的特性 <input type="checkbox"/> 夢中になってやめられない <input type="checkbox"/> 非対面でつたわりにくい <input type="checkbox"/> 不安になりやすい <input type="checkbox"/> 感情的になりやすい
思いやり <input type="checkbox"/> 適切にコミュニケーションを図る 等	機器やサービスの特徴 <input type="checkbox"/> サービスの提供側から様々な勧誘がある
正義・規範 <input type="checkbox"/> 情報社会のルールを守る <input type="checkbox"/> 正しいことを実行する 等	

情報モラルの前に「日常モラル」です！